

JCHO 埼玉メディカルセンターを受診された患者さまへ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されない場合は、下記の間合せ先にご連絡ください。

研究課題名	悪性中皮腫におけるサイトリッチレット <sup>®</sup> を使用した際の細胞学的検討
研究責任者	JCHO 埼玉メディカルセンター 病理診断科 鶴岡 慎悟 病理診断科部長 清水 健
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	川崎市立川崎病院 担当者選任中 大阪はびきの医療センター 病理診断科 医務局長 兼主任部長 河原邦光 同病理診断科 梶尾健太
本研究の目的	現在細胞診の分野では LBC 法が開発され、多くの分野で利用されている。 通常法と比較して LBC 法では細胞像の変化が報告されているが、溶血作用のある LBC 溶液であるサイトリッチレット <sup>®</sup> の影響を検討した報告が少ない現状である。 体腔液細胞診を用い、診断が困難である悪性中皮腫をターゲットとして、細胞の大きさや核の大きさの変化、特徴的な細胞像の変化等を研究する。 第 62 回日本臨床細胞学会春期大会ワークショップでの口演と、日本臨床細胞学会誌への論文投稿が目的である。
調査データ 該当期間	悪性中皮腫や癌腫が疑われる患者さまで、病理診断のための標本採取時に年齢が 20 歳以上の患者さま。 2020 年 10 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに診断された症例とするが、癌腫症例 20 症例・良性体腔液症例 20 症例・悪性中皮腫症例 10 症例を目安とし、症例が集まり次第終了する
研究の方法 (使用する資料等)	悪性中皮腫や癌腫が疑われる体腔液検体 細胞診標本を通常法（引きガラス法・すり合わせ法）とサイトリッチレット <sup>®</sup> を添加した LBC 標本を作製し、細胞像を比較する。
試料・情報の 他の医療機関への提供	個人が特定できるデータは削除し、標本のみを取り取りとする。 標本は JCHO 埼玉メディカルセンター病理診断科の鍵のかかるキャビネットに保管する。 通常法と LBC 標本の二つを JCHO 埼玉メディカルセンター病理診断科に提出する。提出に当たっては、プレパラートに患者個人が特定できる情報は記入しない。症例の識別は、本共同研究のためにつけた施設内患者番号による。
個人情報の取り扱い	使用される情報には、患者名（姓名）、生年月日、当院における患者番号（患者 ID）など、患者個人を特定可能な情報（個人情報）は含まない。
お問い合わせ先	電話：048-832-4951（JCHO 埼玉メディカルセンター代表） 担当者：病理診断科 鶴岡 慎悟